

子育て体験インターンシップ7 ~みんなで育児をする“みん育”の時代へ~

肉じゃが作った

7月下旬

Y君が「肉じゃがが食べたい」と言っていたのでご両親に提案。保育園へお迎えに行く途中で材料をそろえた。これまでろくに料理なんて作ったこともない私が今ではチャレンジする気持ちになっている。肉じゃがはY君にも手伝ってもらい、みんなで楽しく作ることができた。調理中、大きなコンニャクをつまみ食いするY君がかわかった! ご両親にも食べていただいた。最近はお互いとの交流も少しずつできるようになり、より楽しいお預かりになっている。

笑顔の演奏会

8月上旬

みんなでクッキーを作る。ご両親に提案して、今回もご了解をいただいた。つまみ食いが好きなY君がクッキーの生地を食べようとして、私たちを慌てさせたり、みんなで笑ったり、こんな一幕も楽しい。クッキーが焼き上がるのを待つ間、Y君が私たちにおもちゃを持ってきた。「演奏会をしよう」という。おもちゃを楽器に見立て、みんなでトロクの曲を演奏した! 「お母さんにも見せてあげよう」ということで、帰宅する直前、部屋を真っ暗にして待機。「ただいま」の声と同時に、

ふすまを開けて演奏スタート。たくさん笑った、みんな笑顔だった。

ラストの日

8月下旬

1週間に2回入ったY君のお預かりもきょうで最後。8月からは次の代のワーク&ライフ・インターン生のお預かりが始まる。今度は私が先輩と呼ばれる。「子どもが嫌がることをいかにスムーズにやってもらうか」を真剣に考えて取り組むことは、おそらく社会に出て働き始めても役に立つことだと感じている。



素直に想いを伝える力で、国際交流も?!

スリール 堀江 敦子社長

高橋くんのこのインターンでの変化は、自分の素直な気持ちを伝える自信を身につけたことではないかと思います。もともとIT講座などの活動も積極的に実施していた高橋くん。正直、最初の説明会では斜に構えた印象がありました(笑い)。そんな彼の一番のターニングポイントは、家庭とのコミュニケーションだったと思います。相手の立場や状況を考えたうえで、自分の想いやしていることを伝える重要さを痛感したと思います。

このことを経て、積極的に自分の想いを伝え、肉じゃが作りを達成し、そのうえで子どもにもマ

マさんパパさんにも喜んでいただいたことにより、「自分を開示し、積極的に行動することが、相手との信頼関係に繋がる」と、身をもって感じたのだと思います。

その後の彼は海外を飛び回り、その場で現地の人々の家にホームステイし、家族のようになっていっています。これも、この体験から人とのコミュニケーションに自信を持ったからではないかと思っています。

もともと素直で何でも吸収しようという彼の姿勢が、成長を加速させたのでしょうか。社会人になってからの彼がまた楽しみです。



マレーシアの小学校児童と一緒に



アンコールワット遺跡群で高橋さん